

## 市長発言内容

### 1. 東日本大震災で発生したがれきの受け入れについて

3月23日に、県によるがれき処理に関する説明会が各市町担当者を集めて行われ、がれきの受け入れの検討をお願いしたいとの事であった。先般、共同通信社が行ったがれきの受け入れに関するアンケートでは約86%の自治体が受け入れに難色を示している。大きな理由として「処理施設がない」「放射性物質への懸念」が多い。

処理場・中間施設・最終の埋め立ての施設について考えた場合、角山環境センターは熔融炉ではないので熔融スラグにできない。また、4トンまでの車両しか入れないため搬出・搬入にも問題がある。リサイクルプラザについても能力的に困難である。焼却灰の最終処分場である坂出環境センターについては、処分場の底に溜まる水を毎日ポンプで汲み上げて処理し放流しているが、水を溜めておくことができるキャパシティーは少ないので、処理能力を超えた水が溜まると水がオーバーフローしてしまう可能性がある。セシウムは水に溶けやすいので完全に遮断できる場所でなければならないという国の基準を満たしていない。

がれき受け入れに関する声として、市内外からメール等で受け入れしないでほしいという声がある。そういった声の理由の一つとして豊島の汚染土壌の水洗浄処理を受け入れてもらえない可能性があるのに、放射性物質の付着の可能性が払拭されていないがれきを受け入れるのはおかしいという声がある。今後、広く市民の声を聞きながら慎重に考えていきたい。現段階では受け入れは困難である。

がれき処理について国は的確な判断をしておらず、がれきの量が2,000万トン発生した阪神大震災では、がれきの90%を兵庫県で処理し、残りの10%は大阪府で処理しているにも関わらず、東日本大震災で発生した2,300万トンが処理できずに遅れていることに問題がある。